OneSignal ユーザー識別・イベント仕様キット

開発とマーケティングが合意する識別子・イベント・エラー処理の契約

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

キャンペーンに必要なユーザー関係とイベント項目を定義し、重複・遅延・同意変更を処理する実装基準を作成します。

バックエンド・アプリ開発者、データ担当者、CRM担当者、QA担当者

目次

01 ユーザーとメッセージの受信先を区別します 3

02 ログイン・ログアウト・退会を分けて定義します 4

03 イベントは業務が確定する時点で定義します 5

04 記入例：内部イベントからAPI項目まで 6

05 欠落・重複・順序逆転の処理結果を定めます 7

06 イベント契約と変更承認のワークシート 8

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

ユーザーとメッセージの受信先を区別します

業務システムの会員、OneSignal User、チャネルのSubscriptionは同じ識別子ではありません。この関係を先に定めておくことで、アカウント変更時や複数の端末で別の人宛ての案内が混ざるのを防げます。

区分	役割	記入例
User	OneSignalのユーザー単位	複数のチャネル・端末の関係
External ID	サービスが定めた安定した会員ID	usr_demo_01
Subscription	端末・メールなどの受信単位	会員IDとは別に管理
業務の相関キー	同じ組織・招待の業務を識別	ws_demo_01 + inv_demo_01

記入例のIXC-DEMO-01は、架空のB2B共同作業サービスで、チーム招待の承諾後に共同作業の完了を案内するものです。user_idをExternal IDに紐付け、workspace_idとinvitation_idは業務関係として保管します。複数の会員が属するworkspace_idをExternal IDに使うと、別々の人を誤って一つにまとめてしまいます。メールアドレスのように変わりうる値を、会員の唯一の内部キーにしていないかも検討します。

> **設計例・期待結果**
>
> この例の識別子は合成値です。実際のOneSignalアカウントでのイベント送信・メッセージ受信の試験は未実施です。項目表と入力例は実装仕様を作成するための草案であり、承認済みのAPI連携コードや試験完了の記録ではありません。

ログイン・ログアウト・退会を分けて定義します

ユーザーがログインしたことは、メッセージ受信への同意とは異なります。会員関係、端末の購読状態、マーケティング同意について、それぞれ更新する主体と失敗時の処理を定めます。

OneSignal.loginはExternal IDでユーザーを識別し、Subscriptionを紐付けます。logoutは現在の識別コンテキストを解除し、匿名の状態に戻します。データの削除と受信拒否は別の処理です。この例では、ログインした会員のIDをサーバーの認証結果から決め、アカウント変更中に前の会員のイベントを新しい会員IDで送らないようにします。遅延した処理でも、発生時点の会員IDを保持します。

アカウントライフサイクルの合意

定義する項目	確認の証跡	記入内容	担当・状態
会員IDの紐付け時点は？	ログイン時・セッション復元時のフロー		
アカウント変更中の通知をどう防ぎますか？	紐付け前後のユーザー・購読		
受信拒否・同意変更は誰が反映しますか？	チャネル状態・同意履歴		
退会後の再送をどう遮断しますか？	削除の処理・送信待ちのキュー		

削除後の再作成も確認します

退会時には、会員の正本、OneSignalの削除範囲、送信待ちキューと再処理記録について処理の担当を定めます。削除APIの成功だけを確認して終えると、残った連携処理がユーザーを再び作成することがあります。同意を撤回したユーザーを後続の配信対象から除外する試験も分けて実施します。

イベントは業務が確定する時点で定義します

画面で操作したことと、業務が保存されたことを区別します。成功イベントを発行する主体と正本となる記録があって初めて、再試行や成果測定でも同じ意味を保てます。

イベント	発生主体・時点	必須の業務関係
invitation_accepted	招待サーバー：承諾の保存確定	会員・組織・招待
shared_task_completed	作業サーバー：共同作業の完了確定	同一の会員・組織・招待

二つのイベントとも、文字列のuser_id、workspace_id、invitation_idを必須とします。共同作業の作成時に、招待との関係をサーバーに残す設計です。誰が行った作業か、どの招待から続く作業かを確認できない場合は、そのキャンペーンの完了には集計しません。名前は行動の意味を表し、組織やキャンペーンごとの値はプロパティに入れます。ユーザープロパティは現在の状態、イベントは時点を持つ事実として区別します。

共通項目	形式	仕様で定める内容
event_id	一意のUUID文字列	業務発生時に生成・再試行でも維持
occurred_at	ISO 8601のUTC時刻	業務確定時刻
received_at	ISO 8601のUTC時刻	中継サーバーの受信時刻
schema_version	整数	項目の意味と変更履歴

記入例：内部イベントからAPI項目まで

業務イベントの内部名と外部APIの項目を対応付けます。同じ事象の再送には同じ識別子を維持し、別の事象には新しい識別子を付与します。

内部イベント項目	記入例
campaign_id · user_id	IXC-DEMO-01 · usr_demo_01
workspace_id · invitation_id	ws_demo_01 · inv_demo_01
name · schema_version	invitation_accepted · 1
event_id	0a16ce21-7e35-4f9e-a5ac-9a331944ab01
occurred_at	2026-09-10T01:00:00Z

OneSignal送信項目	記入例・対応付け
name · external_id	name · user_id
timestamp	occurred_at
idempotency_key	event_idのUUIDをそのまま使用
properties	workspace_id, invitation_id, campaign_id, schema_version

この表は、events配列の要素一つを設計したものです。shared_task_completedには、同じ業務関係と新しいevent_id、実際の完了時刻を入れます。received_atは中継サーバーの観測記録に残し、業務の発生時刻を上書きしません。APIのHTTP 202応答にも個別イベントのerrorsが含まれる場合があるため、ユーザー識別の失敗と正常な受付を要素ごとに区別します。作業本文や招待トークンはキャンペーンの判定に必要ではないため、送信項目から除外します。

欠落・重複・順序逆転の処理結果を定めます

データのエラーをすべて再試行で処理すると、同じ案内が繰り返されることがあります。処理できない入力、再試行する入力、処理済みの入力を分けます。

入力条件	期待する処理	残す証跡
会員・招待IDの欠落	隔離・正本を補完して再処理	項目エラー・正本のID
同じevent_idの再送	重複として処理・追加の参加を遮断	処理済み事象の記録
完了が承諾より先に到着	完了状態の維持・案内の除外	発生・受信時刻
別組織の完了イベント	現在の業務の完了として集計しない	相関キーの比較
退会後に残った待機イベント	送信の遮断・残作業の整理	退会・処理の記録

内部の処理側では、event_idと処理結果を保管して業務の重複実行を制御します。OneSignalのidempotency_keyは同じUUIDのイベントの重複を4時間、ベストエフォートで抑止するものなので、恒久的な重複防止の仕組みとは見なしません。長時間の遅延や運用者による再処理でも、既存の事象IDを追跡します。順序逆転は、timestampを入れれば自動的に解決すると想定せず、正本の最終的な業務状態と照合します。

> **アカウントを確認できない場合は送信を保留します**
>
> usr_demo_01をOneSignal Userに紐付けられない状態を、匿名ユーザーや共通IDで代替しません。認証・紐付けのエラーを確認し、同じ事象を再処理できるかを判断します。復旧時点で既に作業を終えていたり、同意を変更していたりした場合は、以前の配信計画も再評価します。

イベント契約と変更承認のワークシート

イベント定義書は、項目一覧と試験証跡がそろって初めて開発への引き継ぎに使えます。意味が変わった項目については、既存の利用先がどう読み取るかまで合意します。

イベント仕様・検証の合意

定義する項目	確認の証跡	記入内容	担当・状態
イベントはどの保存成功を意味しますか？	イベントの名前・正本・発行主体		
項目の型・必須値・関係は正しいですか？	正常・欠落・別組織の各入力		
重複・順序逆転を処理しますか？	処理記録・最終的な業務状態		
どの利用先が変更の影響を受けますか？	版・ジャーニー・測定・復帰計画		

各イベントに、オーナーとなる開発チーム、利用するキャンペーンと指標、入力例、期待結果、実際の結果とログの場所を結び付けます。この例の実際の結果は未実施として残します。デプロイ前には旧版と新版が混在する入力を確認し、変更承認者と適用時点を記録します。項目を削除したり意味を変えたりするときは、ジャーニーの条件と測定クエリまで併せて修正することで、同じイベント名が異なる結果を生むのを防ぎます。

> **IXCと決める連携範囲**
>
> IXCの顧客データ連携設計では、キャンペーンに必要なイベントとプロパティを定義し、識別子・イベント送信を実装するか、開発チームの実装をレビューします。作成した仕様とエラー処理の項目をもとに、連携範囲、測定ツールの役割、受入試験を協議します。

IXC

発行・ご利用について

使用中の会員識別子とイベント定義、最初のキャンペーンの条件をもとに、データ連携と受入試験について協議します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/customer-data-integration

www.ixc.co.kr/ja/assets/onesignal-event-specification

参考資料

OneSignal Users

https://documentation.onesignal.com/docs/en/users

OneSignal Web SDK reference

https://documentation.onesignal.com/docs/en/web-sdk-reference

OneSignal Custom events

https://documentation.onesignal.com/docs/en/custom-events

OneSignal Create custom events

https://documentation.onesignal.com/reference/create-custom-events

OneSignal Delete users

https://documentation.onesignal.com/docs/en/delete-users

IXC OneSignal SDK・顧客ID・データ連携ガイド

https://www.ixc.co.kr/ja/solutions/onesignal/integration

IXC 顧客データ連携設計

https://www.ixc.co.kr/ja/services/customer-data-integration